

大分発！パラスポーツ発祥の地から、南米へ！

■ **実施団体：**公益社団法人大分県理学療法士協会

■ **対象国・地域：**
ペルー国・リマ市
チョリジョス地区

■ **現地カウンターパート：**
INR（日本・ペルー友好国立
障害者リハビリテーション
センター）の医師・理学療法士



■ **協力内容：**

ボッチャや卓球バレー、Tボールなどのアダプティッドスポーツをリハビリテーションの中に取り入れることを推奨し、指導方法・運動評価・安全管理等の技術を移転しました。

■ **団体のこれまでの取り組み：**

大分県理学療法士協会は、大分県在住のリハビリテーション専門職である理学療法士、約1700人が参加している学術・職能団体です。協会内に国際活動推進委員会を立ち上げ、国際協力活動や人材育成に取り組んでいます。

■ **事業実施の背景：**

INRは、2012年に無償資金協力で建設された建物で、その後、本事業のプロジェクトマネージャーが、「障害者スポーツ」のJICA海外協力隊として、INRに派遣されたことがきっかけで、その後も多くのJICA海外協力隊派遣が続き、本プロジェクトの立ち上げに繋がりました。

ペルー国の課題と成果

課題 貧困や格差により、障害を持つ高齢者や子どもたちが十分なケアを受けていません。また、障害児スポーツはリハビリテーションとしてメジャーな手法ではありませんでした。

成果 障害者スポーツは、子どもたちの身体能力だけでなく社会的能力を引き出し、その実感が、カウンターパートの指導力向上に繋がりました。ビデオやルールブックも完成し、事業終了後も自立的な活動が続いています。

無償資金協力から始まった、両国のプロフェッショナル同士の10年以上に渡る友好的な国際協力関係は、今後も続いていきます。

事業の波及効果



**地元、大分・別府の社会的価値に気付き、
「環流」を意識出来るようになった！**

別府市には、「日本パラリンピックの父」とも称される故・中村裕氏が設立した社会福祉法人太陽の家があり、“No Charity, but a Chance!”の理念の下、障害のある方々が生活し、働き、挑戦できる環境が整えられてきました。また、APU（立命館アジア太平洋大学）が多くの留学生を受け入れており、社会的マイノリティが生き生きと暮らすインクルーシブな町となりました。今後は、地元のリソースを活かした活動を構想し、地域還元していきます。